

發行人 阿部 憲一

文化サークルの

自立を

物質氾濫と皮相な安定ムードの
ために、社会の本質的問題、総体
を洞察する作業は、きわめて困難
な状況にあり、人間の必死の歴中
的投企も、ともすれば埋没せられ
れそうである。結局、アダム・ス
ミスの言つて如く「神の眼を養ふ

實生活の変革に役立てるものとして描定しなければならない時である。昔、貴族の気晴しとして出資したような諸々の文化状況から一刻も早く脱皮し、人間の现实生活と直結した所に、人間の意志によって文化を握る直さなければならない。

1、現実での
自己の在り方

以て述べたことの具體的可能性を思考する時、第一に問うべきとは、わたしは一人ひとりが、現実の中でどう自己を位置づけるのかということである。いやしくもわたしは文化サークルと自覚する限り、そこにはそれだけの意義が、又それに参加するわたしと一人ひとりのなかにそれなりの自覚が要求されるのは當然であるところが現実には、世の文化人知識人と呼ばれる人々の中に五割だけの人が真にその名に値するだろうか。平素、口を開けば「コンカ、ハイウ」と格好をつける人々に、その陰ではカバチヨと金集集めることにもいとめをつけます。きもち足りた血色のいい輩には、真に文化を問題にする資格はないと言わなければならない。

このような輩の吐き出す文化論議程、始末の悪いものはないが、一度何かがあつたら、彼等はずちまち雑誌のマスコミにはせまじい自らの腰抜け加減、墮落振りのために、その馬脚を表して道化役を演じ、衆目の嘲笑を浴びるのである。まったく大層というものではない。最近度々この種の道化芝居を

見せられ、改めて世の文化人、知識人の何たるかを認識させられたのである。昨年、学生が血を流すほどの重大な時に、それを知りつつ、多摩湖畔に出かけて「赤坂まつり」や「なぐとじやれ回り、自ら前衛足り得ないことを暴露した自称前衛貴族があったり、最近ではすっかり老はれてしまったのか、大学の自治が学生のために」とと泣きだして、国家横力により、大学の治安維持法的な、警察雷明に對しては、何ら具體的に立ち上がることはせず、真の自治と、権力の庇護のもとでのヒトツキ自治との見境もつかなくなり、たゞひびくたすら「己の地の保存に狂舞する卑しい学者根性丸出しの学長族があらうたり、また一方では、まことに気軽にブラウソ管に顔を出して、少しばかり「ラサレ」の利いたことをしやべり、それでひとかどの知識人面をして悦に入っているオツチヨコチヨイが、最近なんと増えたとか。現今のテレビの非文文化的、痴的性格からすれば似合ひの夫婦といえるが、それにしてもそんなテレビの要請にオイソレと飛びつき、茶の間の人気解説者になつて、吾が身のみすばらしさに気づかず得意顔になつてゐるのなの。曰く「世の中というのはそう。理通りには生きられないよ、杜理通りには生きられないよ、杜に會はばそれは甘くはない。」」ここに至つては、人間としての精神葛藤、自己の不申斐無さに、逆に居直つてゐるとすら言はざるを得ない。そんな根性で文化人面されるのは、黙つて許しておくわけに

いかに。かな。幸、世の文化人、知識人を非難すると言われるかも知れないが、それは文化を、真に人間の現生活の根本的変革に向けて論じようとする時、かかる輩の存在を強く否定し、文化の土壌の殺菌をしておかないと如何なる論理も無に帰してしまふからである。

このような世の墮落した文化状況は、わたしたち大学の文化サークルにおいては、もっと単純素朴な形で同じよに現われている。

大学の文化サークルの活動を見るとき、そこには若者らしい情熱、正義感、探究心といったものはあまり感じられない、むしろそれらを自己の中で否定し、捨てることとが大人であるかの如く、社会に出るにふさわげなければならないかの如く考え、悪に順応するユツツを身につけることが大切なことになり、悪きマイホームの如に引かれて、大学生活を通過するのが実情である。このような大学生活によつて思考されるサークル活動も知れている。

今、わたしたち文化サークルの一人ひとりに要請されることは、人の人間としての自己に向けての問いかけであり、戦いである。

自分の将来の生活のことを考えるとき、いやがなくても学生を追い込んでいる体制順応型思考、日和見主義を自らの力で克服出来ただけの思想を自己の中で形成すること以外に、わたしたちは社会の矛盾、陳腐の桎梏から逃がれることはできないし、自ら戦いを起さなければならぬ。自らも又、かかる矛盾、陳外に

2、文化とは？

2、文化とは？

さてこの辺で少し論点を変えて
気分転換を試みよう。

それは「文化」といったときそれ
の包含するものについてである。
別にここで「文化」なる言葉の定
義を論じようとしているのではなく
、ただ少々、現況に於ける文化
の在り様、認識のされかたについ
て言葉を呈したい。

日本の現在の文化状況を見渡し
たとき、そのあまりの繁雑で、荒
廢さばけ目をおおいたくなる。

歴史を組解くと、そこには必ず
複雑な中に一條の光を放つかの如
く、真に創造的な、あるいは創造
的たらんとする芸術運動あり、思
潮、といつたものが見られる。

そしてそれはいつもその時代状
況の反映であり、突破口であり、
各々の時代の現実社会との葛藤を
根底にしているという点で、現実
の具体的な生活と密着しているの
である。

ところが今の日本の文化状況の
中で、はたして、歴史を鋭く貫く
だけの根柢に立った文化的運動が
はたしてあるだろうか。

或るものは娛樂と同一化し、或る
ものはゴチゴチのイデオログの
普及宣傳の徒となり、又あるもの
はゴースト・システムにカタカタに
されたたり、権力の前に自ら頷き
て主体性も独自性もかなくなり捨て
ている。しかも皆々々がこれに二
重、三重に縛り上げられて手も
足も出ず、自ら抵抗の意欲を放棄
しているのが実状である。曰く、
「大衆芸術論」、「社会主義のア

いてその陳腐・加減を論じている暇はないので次に進むことにしたい。(なお、吉本明著「異端と正統」現代思潮社を紹介する。大部分異論なり。しかし氏の「芸術は作者の想像世界による……」は肯定、否定の結論を出しかねる。)

文化の存在価値を正の方向にて認めようとするならば、それは次のような複思においてである。

「現実の具體的生活において人間が矛盾、陳外に苦しみ、葛藤しているという事実に対し、文化は如何なる役割を為し得るか、この命題を享受得る、答えようとするものでなければならぬ。」

少々とも、現代においては、文化といったとき、それが何となくそこに住んでいる人間の意識の単なる反映でしかないようなスタチックな捉え方でしかないかかったからそれはフセンである。このような文化の捉え方の存在が極論すれば、ヌード劇場でも「文化劇場」といった珍事が飛び出し、「大衆芸術論」などど気取つて、手前の俗物根性をステーパーションしているのをコマカすような文化を現象変革に向けて思考しようとするとき、もはやこの種の文化にまつわる人間の気まぐれめつともいふべき捉え方を許しておくわけにはいかないし、否、積極的に棄け去らねば限り、前述の視点には立派な。

現象生活の矛盾からの逃避にしか結局ならないような文化(芸術)を否定し、現象生活を変革、

つ時代の残骸ともいえるこの価値基準から、現実の生活と矛盾に苦しみ、葛藤する人間の側の価値基準に移行しなければならない。このような視点に立つ時、現下の「リアリズム」運動も、歴史を定年から測定するものでではなく、刻々変化する現実に対応するには不十分であり、要すれば、ある特定の、それもまたに個別的な、普遍的ではない、イデオロギーにより歪曲されたものに他ならないし、又、現今の年功序列型文化人により決定される諸々の「『實』」の基準も全くセンスなものが多いと言わねばならない。レーニンが「トルストイ文学批判」で示している（レーン）著「又学論」(青本庫)のような基準と比較してみようなら、いかに現今の芸術価値基準がマダマであり、罪深いものであるということが一目瞭然である。

序で述べた如く、歴史を操作できる文化というものとは、従来の趣好、境地、情緒に振り回された非合理的・非論理的価値基準ではなく、現実生活の矛盾、疎外に積極的に向き合っていくかといった、明確な拠点をもった論理的価値基準に置き換えなければならない。

3、文化サー

クル批判と自立の問題

さて、以上がかなり文化小論の

(次頁へ)

3、文化サークル批判と自

立の問題

（次頁へ）

の維持続行に、習慣せられ、あけ「リズムの復活」、「ユニバーシアード芸術祭」、「社会開港」と称挙にいとまじである。その一つ一つの実体を明らかにすれば小学生でも吹き出しそうな代物でありそのうち「万国博覧芸術祭」、「民族、防衛芸術祭」と飛び出してきそうであり、これら一連の事実はいかに文化、芸術といったものがその独自性をもぎ取られ、いつも何かの目的のために利用されているかを物語り、背筋の寒くなる思ひである。まったく「文化」を飾り物位にしが考へない右や左の目黒祭のアイデアゴッコには、あいそがつかない、文化を人間の现实生活変革に向けてまじめに思考しようとしている人間には、到底マネの出来ない芸術である。

ここで以上諸君の二つの批判を創造するやうものを育んでいかなければならない。娯楽であるし、慰み物はそれでしかないことをはつきりさせ、文化とか芸術などの混同させてはならない。

例へば芸術価値基準について言ふなら、その基準は各人によりまちまちにその人の趣味、情緒の決定に任がされていることが多いが、このような基準は一九世紀までで終わりたいものである。

このような非科学的、非合理的な基準には現代の意義はない。

（この芸術における非合理性を、芸術の特性である、大事にするものもあるが、それは、作者の自由な表現ということを、芸術の価値観に持ち込むことによつて、自ら混沌としてしまつていたのである。）

芸術が貴族の慰み物である

非制度的、非文化的、非

の維持続行に、習慣せられ、あけ「リズムの復活」、「ユニバーシアード芸術祭」、「社会開港」と称挙にいとまじである。その一つ一つの実体を明らかにすれば小学生でも吹き出しそうな代物でありそのうち「万国博覧芸術祭」、「民族、防衛芸術祭」と飛び出してきそうであり、これら一連の事実はいかに文化、芸術といったものがその独自性をもぎ取られ、いつも何かの目的のために利用されているかを物語り、背筋の寒くなる思ひである。まったく「文化」を飾り物位にしが考へない右や左の目黒祭のアイデアゴッコには、あいそがつかない、文化を人間の现实生活変革に向けてまじめに思考しようとしている人間には、到底マネの出来ない芸術である。

ここで以上諸君の二つの批判を創造するやうものを育んでいかなければならない。娯楽であるし、慰み物はそれでしかないことをはつきりさせ、文化とか芸術などの混同させてはならない。

例へば芸術価値基準について言ふなら、その基準は各人によりまちまちにその人の趣味、情緒の決定に任がされていることが多いが、このような基準は一九世紀までで終わりたいものである。

このような非科学的、非合理的な基準には現代の意義はない。

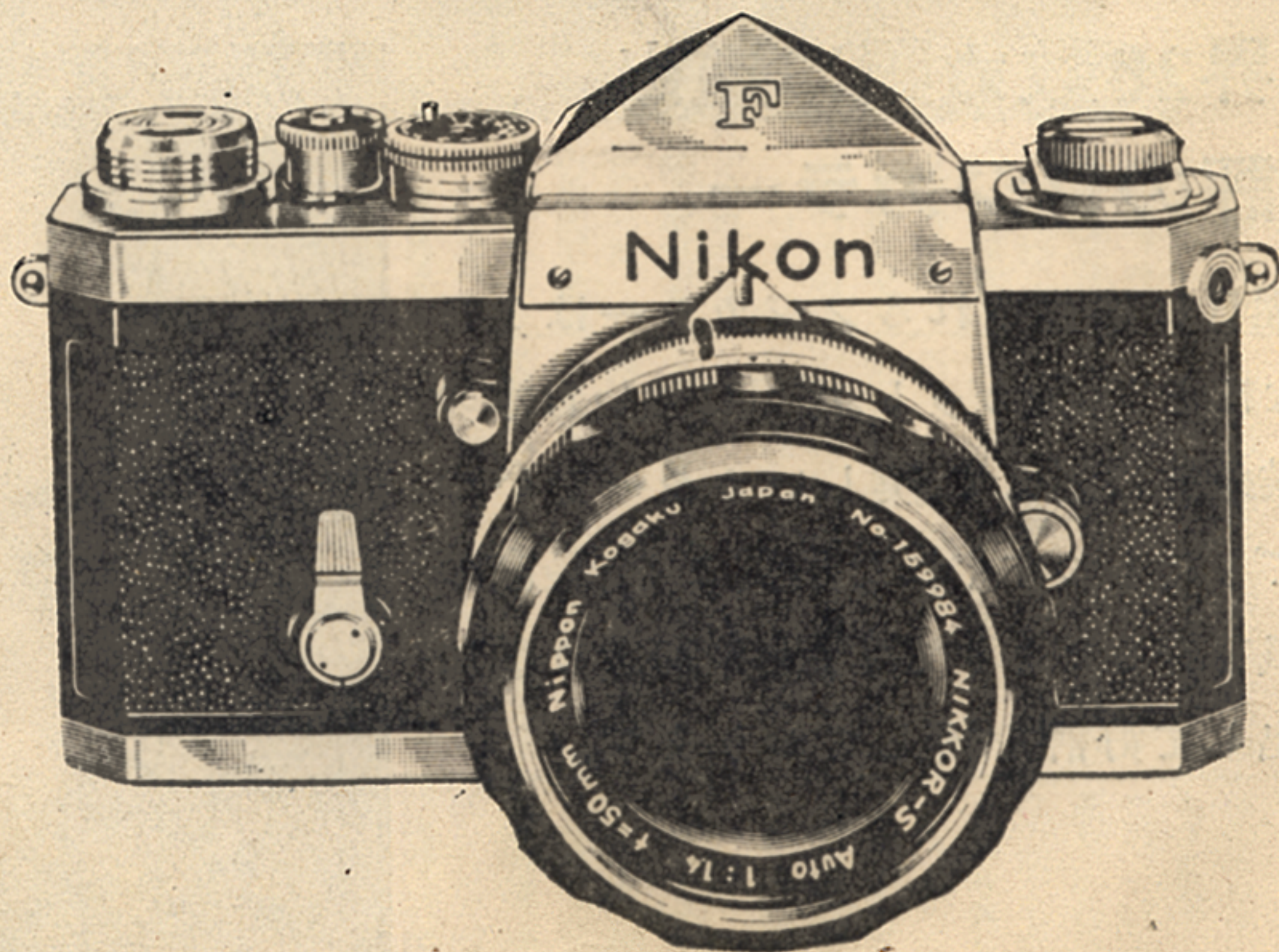
（この芸術における非合理性を、芸術の特性である、大事にするものもあるが、それは、作者の自由な表現ということを、芸術の価値観に持ち込むことによつて、自ら混沌としてしまつていたのである。）

芸術が貴族の慰み物である

非制度的、非文化的、非

■カメラはニコン メガネもニコン

世界一を結集したカメラ＝ニコンF
万能を追求するかたのために
シャープなニッコール交換レンズと
あらゆるアクセサリを完備しました



ニッコールオート50ミリF2付き.....¥58,700
ニッコールオート50ミリF1.4付き.....¥67,000
ニッコールオート55ミリF1.2付き.....¥79,300
皮ケース.....¥2,500より

日本光学工業株式会社 東京都中央区日本橋西川ビル

Nikon F

1

35mm 20枚撮490円（現像料別）他各種

富士フイルム

A black and white portrait of a young woman with dark, wavy hair. She is looking slightly to the left of the camera with a gentle smile. She is holding a bouquet of small, light-colored flowers near her chin. The background is a textured, mottled grey.

35mm 20枚撮490円 (現像料別) 他各種

富士フイルム



キャンペーン状況67

合宿総括

われわれは、複雑しきるをまいた現実の真空中、血まじりの闘いが、われわれの外部で、あるいはまた、内部に於いて、絶え行なわれている場に直面している。われわれが、いま、不可決に行なわれなければならないことは、この血まじりをあけた時代の深奥に向けて新たに、われわれの「写真」の意味、この時代のなかで果して写真とは何であるのか、撮るとは何か、行為とは何かを、自己と現実のかかわりのなか、また、現実と写真、自己と写真のかかわりのなかから、根元から問わねばならない。その行為によってこそ、われわれのキャンペーンの意味は、明らかに、われわれの眼前に現出し、提呈されてくるのである。

(1) われわれは、いま、この時代の混乱の中に存在せられていて、過去において人間が所持していた地図は消え失せ、手がかりは燃え尽きた。まるで、砂漠のようになかて道を失ったように立ちつくしている。この地、現代において、われわれは何をすればよいか、どこへ行くのか、時代の提呈がわれわれを苦しめ、悩ませようとする。

ある人間は、この思惑しきに耐えかねて、自らを捨て、ある人間に叫びをたてた。またある人間は……

われわれは、われわれに対しておおいに苦しめ、圧迫を加えているものの根元、実体をとらえていかなければならない。そのことを徹底的に、この提呈の圧迫そのものを振り払っても、それは、そういうふうにして自分を動かしているものか、やはり「提呈」である以上、本質の意味、その提呈を生み出している実体には、近かきえず、それは、つき動かしている提呈から逃れることが、その同一方向へ向ってなされてしまうことにすぎない。

そのことは、いかにさまざまな方向に向ってなされたとしても、その自己を動かしているものが、やはり提呈である以上、それはまた新たな形を変えて、提呈に帰着し、われわれの前に立ちふさがるのである。

あるいは叫びをあげたとして、そのことは、圧迫に絶えかねたうえのことではなく、具体的に自己がなす方法をきいてしまおう状態ではありえないのではないであらうか。

さて、われわれ自身も、その……

……

な屈折と陰翳が、一見これ……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……



(四画から続く)

り、またそのことを明らかにして
いくというところは新たな問題を
……
という、すべての問題が解決し
てしまふことは決して有りえず
解いても解いても新たな現実の
問題の相対に直面するといふ、混
沌の一層の深まりの中にこそ、そ
のわれわれのシジフオスの行為と
ともに、われわれは位置づけられ
ていることを認識しなければなら
ない。

レイアウト・引用文・年表

その視点とプロセス

キャンペーン67年度合宿が終
了を目前に控えた、レイアウト
引用文、年表において我々はこ
の状況とどのように対決すべきか？
「具体から具体と進まない限り
(65年度)」どんな偉大な思想家
でも、極めて具体的に物を動かす
状況の前では無に等しい。状況は
常に自らの力によって自らを逐一
変化させていることを忘れてはな
らない。この原則に立ち各班の視
点とそれを具体化する手法の中で
我々の対決の姿勢を明らかにしよ
うと思う。

キャンペーン67年度合宿が終
了を目前に控えた、レイアウト
引用文、年表において我々はこ
の状況とどのように対決すべきか？
「具体から具体と進まない限り
(65年度)」どんな偉大な思想家
でも、極めて具体的に物を動かす
状況の前では無に等しい。状況は
常に自らの力によって自らを逐一
変化させていることを忘れてはな
らない。この原則に立ち各班の視
点とそれを具体化する手法の中で
我々の対決の姿勢を明らかにしよ
うと思う。

それは、そのわれわれの行為
だ。
そして、そのわれわれの行為
は、完結をもった一つの小さな
輪のなかで行なわれ、終わること
では決してなく、永遠の時間と無
限のなかで行っていくことであ
り、気分や感情などという、その
時々の波の長短で行ないえるもの
ではなく、一つのものを積み立て
に積み立てるという構築的行為と
歴史のすべてを探り回り、地には
い、現代のあらゆる個性化して存
在している問題を集積し、見切り
ながら捉えていくという作業によ
って行なわれるものである。

それは、そのわれわれの行為
だ。
そして、そのわれわれの行為
は、完結をもった一つの小さな
輪のなかで行なわれ、終わること
では決してなく、永遠の時間と無
限のなかで行っていくことであ
り、気分や感情などという、その
時々の波の長短で行ないえるもの
ではなく、一つのものを積み立て
に積み立てるという構築的行為と
歴史のすべてを探り回り、地には
い、現代のあらゆる個性化して存
在している問題を集積し、見切り
ながら捉えていくという作業によ
って行なわれるものである。

レイアウト・レイアウトす
る我々は、写真を個の状態の一
引用文——それは名義集であつ

レイアウト・レイアウトす
る我々は、写真を個の状態の一
引用文——それは名義集であつ

レイアウト・レイアウトす
る我々は、写真を個の状態の一
引用文——それは名義集であつ

レイアウト・レイアウトす
る我々は、写真を個の状態の一
引用文——それは名義集であつ

キャンペーン

状況1967

●一九六七年——一体何が起っただろうか？
ベトナム戦争・黒人暴動・中東事変・革新都
政・授業料値上・L.A会議・新ナチ台頭・等
●一九六七年だがわれわれは生きていく！
傍観を許されぬわれわれは完全にそれに対す
る突破口をふさがれているか？何を見える。われ
われは何をしたらいのか？何をしなければなら
ないのか？……だがわれわれは知って
いる！
突破口の起点はわれわれ自身に他ならぬこと
を！
われわれの疑問はわれわれの行為でしか明ら
かにならぬことを。そして撮ることに課せら
れた義務を
状況67 それはわれわれの疑問であり、義務
であり、起点に他ならない。

キャンペーン

状況1966

330円

キャンペーン

状況1965

280円

全日本学生写真連盟

東京都新宿区三栄町二五三 栄会館内
電話 東京(393) 九四四二番

写真を感じ、どんな本を読んでいたかを記載。

●各時点において、写真とその時期にやっていた事との対応関係の意味をとらえる。

●AとBという時間の経過の中での対応関係を見る。

●現在までの間に彼にとって写真はいかなる意味を持ち得たか又今後どの様に写真を捉えるか

そのためには、どのような事に関心を払い、研究活動を進めるかを明らかにする。

現在

A

B

今まで撮って来た写真を年代順に並べる

●最新刊

●ローブシン／川崎淡沢・内村剛介解説

蒼ざめた馬

四六判上製・540円

●G・パタイユ／出口裕弘訳

有罪者(釋堂全)

四六判上製・850円

●森本和夫著

零主義とルネサンス

四六判上製・1080円

●古典文庫 ＊歴史の闇に出現し新展開する書物群—— 既刊15冊

●グリーンメルスハウゼン／中田美喜訳

贅の女と師シエ

B6判上製・600円

●チェウリニ／黒田正利訳

白伝(下)

附ローブシン特抄目録せ、殺させないために。憎悪の戒律に生きる孤独な魂の奥底に燃える蒼白い炎。世界を愛容できぬテロリストの呪詛と罪障の苦悩を描いた永遠の傑作、ここに甦る。

過激な歓び、壊滅的な祝祭。笑い・エロチスム・賭け・犠牲・醜聞——そして恐るべき人交感の表現。現代にある最もサドに近い思想家」と言われるパタイユの激甚な著作の彫琢の初訳

アラン、ルフェーヴル、サルトル、メルロー・ポンティ、道元の思想を通して、実存主義とマルクス主義の相關を、物質論・時間論、言語観等の視点から浮彫りにし、現代の全情況を思索する

騎兵隊長の妻からシブシーまで、二〇年戦争の渦中を快楽と冒険に運ち生きぬいた奔放な女、クラインシュの有為転変の生涯を痛快に描いた28章。ドイツ・ヒカレスク小説の傑作を本邦初訳

全五巻完結 十七世紀後半、稀有の天才が筆を筆に代えて揮う、ルネサンスの人間群と熱誠あふれる芸術的生涯の姿。フィレンツェに帰る、なおおおかたの道

(六面より続)

いかにいかに、いままで写真について考えた範囲をあまりにも限定してしまひ、生活の場を意図的に写真の問題を捉えていなかった。それ故にテーマも捉え切れず作図活動が断片的で、前のテーマから次のテーマへ移行するにも自分の捉えようとする現実のありようは止揚されないまま終結してしまつていた。

生活の場を写真で捉えるとは、具体的にどういふことか。自分のあらゆる行為によつて、テーマを多くの方角から明確にし、そのテーマの内部に包摂する様相を突きつめるのだ。シャッター以前の作業として、テーマに関するあらゆる本(資料)のなかから内容的なもの(資料)を選び、自分の思考・行為のすべてをそのテーマにむけて(逆にいへば、彼のテーマは写真のために限られたテーマではなく自分の生活過程の中から必然的な形態の下に表出するテーマであつて、それは自己の全生活にとつてのテーマである)を意味しなければならぬ。それ故に、テーマの側からその様相の究明と、被写体までも克明に限定し、撮影以後の処理、フィルムの種類、現像の仕方、レイアウトの方法を出来るだけ作りあげながら、作図活動をしていくのだ。

動や例会等のように、常にある一時期の状態に見合せている。すなわち、普段の各員の向うとして、この作図活動に際しては、他の各員と明確に区別して、他と活動することにより、その問題をより展開させていくのではなく、その場、その場で、そこにある写真から問題を見つけて出し、それ以後の展開は各個人にまかせてしまふという、断片的なシャッター活動ではなく、今のシャッターの問題として取り上げなければならない。

そして現在、スペイン戦争はロマンティックな神話であり、郷愁であり、はるか過去のことであり、ヨーロッパの歴史に華やかに記されているかのようであつた。アラン・レネの映画「戦争は終わった」は、このスペイン戦争の過去をフタルックに、また、あるいは革命の未来を夢に描きながら二〇〇年の年月を越え、今日の日常の流れるなかから、革命家としての行為を語っているのだ。

「一九二〇年代の若者には戦争があつた。マルローやモンテランには、僕には何もなかった。ゴッタルドは後の映画で、主人公にこう絶叫させ、あるいは日本でも大江健三郎は「われわれは戦争のなかに冒険という名に飾る戦争がな」とヒステリックに叫ぶ。このノスタルジックな懐かしい冒険への夢。これら、まったく日常性というウナにからめとられ、身動きできない状況におかれた人々の叫び。

レネの作品の主人公たちは、周囲をおろそかにし、日常性の愚問を回すのだから、自己のアイデンティティを希求し、みずからを回転させつつ、その日常にやいばを突き立てる。しかし、この「戦争は終わった」の主人公、ティエゴの場合には、日常をとりまく事物(たとえば、娯楽施設、レジャー産業)の環境、人間関係の作つてゆく環境と、その環境に自分自身を適応させていく人間の問題に合致したところがある。しかし、この活動も、我々が外に出て実際になすことになり、感じてくるという作業を行なつたために、中味の抜けただけな概念操作の傾向の強い活動になつてしまつた。

そして現在、これらの活動の間、歴史を再び分析して、極限活動をして、その活動を各人が街に出て写真を取り、その実感を班会の中で積み重ねてゆくものとなるだろう。そしてその積み重ねの上に、研究活動が行なわれることになるだろう。以上のように、我々の夏休み以後の活動は、試行錯誤の連続であるが、その活動の中で徐々に、我々の活動がいかにあるべきか、明らかにされてきたものがある。我々は、今後も多くの試行錯誤を重ねてゆかなくてはならないが、その度に、我々は前進してゆくであらう。

(八面へ続く)

アラン・レネ

「戦争は終わった」か!

戦争は終わったか?

いや、決して終わりはしていない。戦争は新たな局面をもつて、あの時、一九三九年四月一日からナチスト、駆逐された労働者、知識人、取り戻した品物を下した三〇年代のヨーロッパでは、思ふ存するも苦しかった。フアン・グスマンは、この映画で、この国も、この人間も自分だけが助かる。どんな値を払つても助かる。じつと押し黙つて、何とかわが身を救つておきたい。小島、ピカソは「ゲルニカ」を描いた。

民衆は自立し、連帯し、また、ある一方では幾多の作品を生んだ。ロバート・キャパは「倒れし兵士」を撮り、ヘミングウェイは「誰かのために鐘は鳴る」を書き、ピカソは「ゲルニカ」を描いた。

たのしみ、われわれの世代の人々に手を取りあつて立ち上がった。各国の社会主義者、共産主義者、ナチスト、駆逐された労働者、知識人、取り戻した品物を下した三〇年代のヨーロッパでは、思ふ存するも苦しかった。フアン・グスマンは、この映画で、この国も、この人間も自分だけが助かる。どんな値を払つても助かる。じつと押し黙つて、何とかわが身を救つておきたい。小島、ピカソは「ゲルニカ」を描いた。

民衆は自立し、連帯し、また、ある一方では幾多の作品を生んだ。ロバート・キャパは「倒れし兵士」を撮り、ヘミングウェイは「誰かのために鐘は鳴る」を書き、ピカソは「ゲルニカ」を描いた。

レネの作品の主人公たちは、周囲をおろそかにし、日常性の愚問を回すのだから、自己のアイデンティティを希求し、みずからを回転させつつ、その日常にやいばを突き立てる。しかし、この「戦争は終わった」の主人公、ティエゴの場合には、日常をとりまく事物(たとえば、娯楽施設、レジャー産業)の環境、人間関係の作つてゆく環境と、その環境に自分自身を適応させていく人間の問題に合致したところがある。しかし、この活動も、我々が外に出て実際になすことになり、感じてくるという作業を行なつたために、中味の抜けただけな概念操作の傾向の強い活動になつてしまつた。

そして現在、これらの活動の間、歴史を再び分析して、極限活動をして、その活動を各人が街に出て写真を取り、その実感を班会の中で積み重ねてゆくものとなるだろう。そしてその積み重ねの上に、研究活動が行なわれることになるだろう。以上のように、我々の夏休み以後の活動は、試行錯誤の連続であるが、その活動の中で徐々に、我々の活動がいかにあるべきか、明らかにされてきたものがある。我々は、今後も多くの試行錯誤を重ねてゆかなくてはならないが、その度に、我々は前進してゆくであらう。

(八面へ続く)

サークル活動

その実践

学習院大学写真部

昨年の夏の合宿に於いて我々は、共同作業「東京をサークルの中心活動として設定した。その合宿で我々は、それまでの活動を写真を見ることにより、即ち例会を行うことにより、総括した。その結果我々のサークル活動の持つ問題点が明らかになつてきたが、そのうち特に重要な問題は我々の活動がサークルの有効性を十分に發揮していないことであつた。確かに各人の撮影活動は行われてきたが、それはお互に無関係なままに存在し、そのような各人の活動を結び合わせてゆくものは例があるのみであつた。我々は日常活動に於いて各々のと

らいている問題を話し合うことはあつたが、そのような活動は意識的に継続的に進められていなかった。このことが活動を展開していく上で大きな障害となつて、我々の意識された活動が、日常活動からの複合が行われる必要があつたのだ。そこで考えられたのが、共同作業であつた。

それは、ある一つの不透明な対象をサークル員が持つたか、つて透明にしてしまふというものである。その対象として「東京」が選ばれた。我々の生活圏としての東京、東京という文化圏の中の我々の問題をサークルで組織的に継続的に明らかにしようとするものであ

る。他の一つは「極」と呼ばれる方法である。これは「東京」の中に不透明な対象(娯楽「フッシュン」(「伝達」)を設定し、これにサークル員がそれぞれ自分からアクセスして不透明なものを透明にして行く方法である。二つの方法とも我々の問題を個々の内部から我々の周囲へ向けて行くことにより、写真が個々の問題から全体の問題に広がってゆき、より有効なサークル活動が行われるはずであるという視点で考えられたものであつた。我々はこの二つの方法を検討した結果、「極」の方法を選んだ。それは、「核」の場合、各人が確実に自分の問題を外に展開し、東京にアプローチしてゆくことと、問題が拡散し、再び個々の自分の内部へと向けてゆくという可能性が大きい。その時は以前のサークルと何ら変わるところはなくなつてしまふからである。

夏休み我々は「娯楽」「フッシュン」「伝達」の三班に分れて活動を開始した。ところが各自のテーマの把握が十分であつた。サークル員がそれぞれ自分からアクセスして不透明なものを透明にして行く方法である。二つの方法とも我々の問題を個々の内部から我々の周囲へ向けて行くことにより、写真が個々の問題から全体の問題に広がってゆき、より有効なサークル活動が行われるはずであるという視点で考えられたものであつた。我々はこの二つの方法を検討した結果、「極」の方法を選んだ。それは、「核」の場合、各人が確実に自分の問題を外に展開し、東京にアプローチしてゆくことと、問題が拡散し、再び個々の自分の内部へと向けてゆくという可能性が大きい。その時は以前のサークルと何ら変わるところはなくなつてしまふからである。

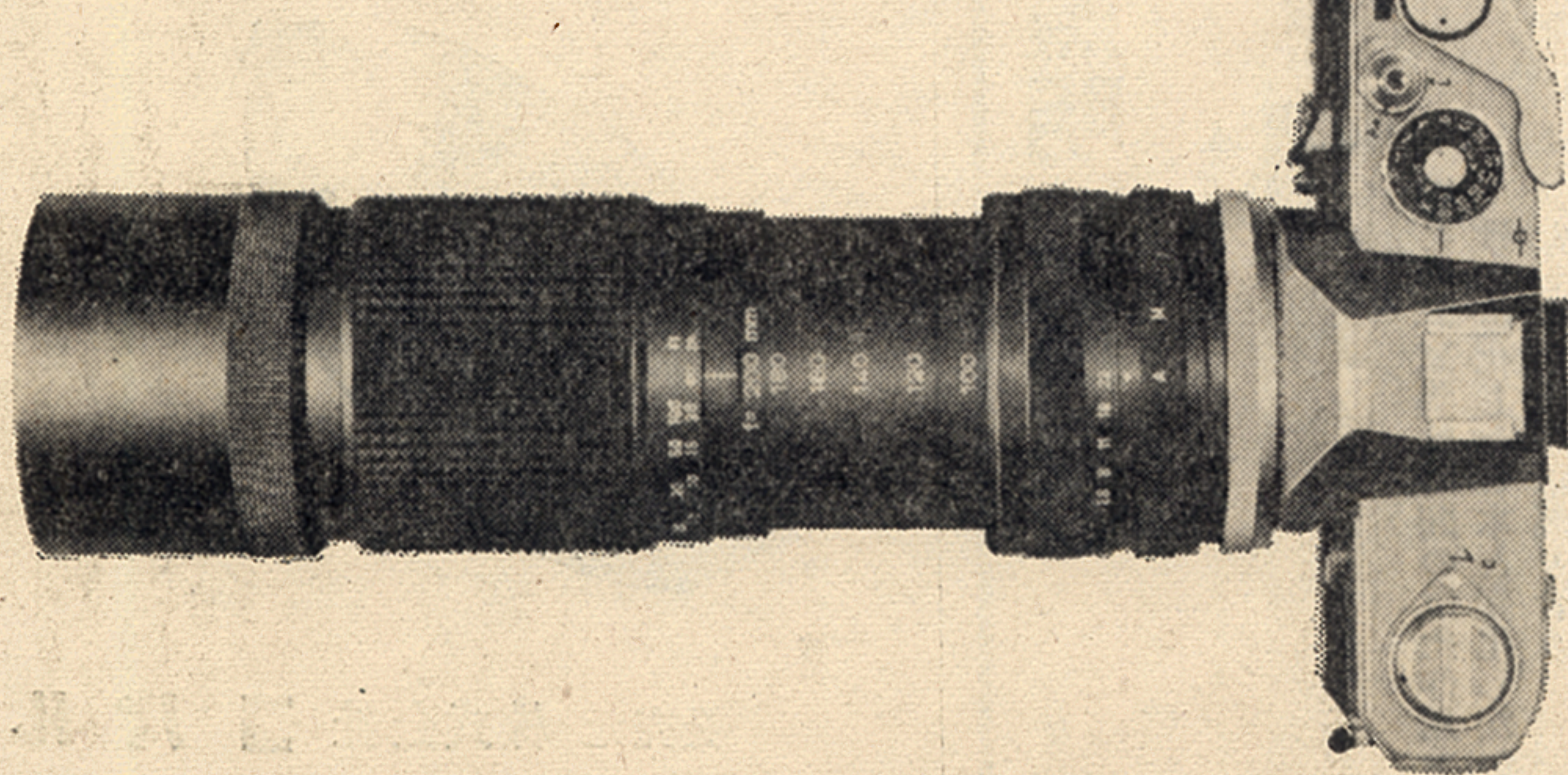
そのために各人はそれぞれ独自の研究活動のプランを立て、活動を開始した。三つの班でその内容に多少の差があるが、その活動に共通している点は、焦点を人間とその

た人と人との、原爆の街広島で結ぶ点にある。フランスの女は日常のなかに埋没させ、忘却のふりをした過去の傷のすがたを、この「ヒロシマ」の傷とともに、かきまわることによって交差させ、意識を対峙化してゆく。彼女は「生きている」ために、忘れなくてはならぬ。それは、まさに過去によって「ヒロシマ」も、彼女の街、記憶の街「ヌーベル」も、そして、自己も人生も存在するようないまこの

(八面へ続く)

ミクロの世界から宇宙の拡がりまで

映像の可能性を追求する キヤノンFT



完成されたシステム

世界初の本格的超広角 (19mm) から超望遠 (5200mm) まで20種以上の専用交換レンズをそろえたキヤノンFT。眼の限界をこえる極微小の世界から、宇宙の拡がりまで、あらゆる映像の可能性を追求するカメラです。

キヤノン独自の焦点測光

画面中央の光を焦点面で測る。キヤノン開発の焦点測光TTLも映像の追求者には無視できません。ネラッた被写体そのものを測光するので、むずかしい逆光も一発で決まります。いまや測光方式の主流です。



FL58mm F1.2付	現金正価 ¥66,800
FL50mm F1.4 II付	現金正価 ¥54,800
FL50mm F1.8付	現金正価 ¥45,800
ソフトケース	¥2,400
キヤノンブスター	¥9,800

キヤノンコンパクトレンズ	
望遠FL135mm F3.5(ケース付)	¥16,900
望遠FL200mm F4.5(ケース付)	¥19,900
ズームFL100-200 F5.6(ケース付)	¥29,900

キヤノンカメラ株式会社

